

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402150		
法人名	株式会社あすなろの森		
事業所名	グループホームあすなろ(クローバー棟)		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町馬場名277番地		
自己評価作成日	令和3年8月5日	外部評価結果確定日	令和3年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4271402150-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和3年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様ができるだけ落ち着いて暮らせるように またその人らしい暮らしができるように生活全般にわたって気配り、心配りを行いながら支援することを心がけています。昼食前に嚙下体操を行い、経口にて食事が摂れる機能が維持できるように 食べるという喜びを感じて頂けるよう美味しく栄養価のある食事を提供しています。日々の活動性が高まるようにレクレーションを行い、コミュニケーションの機会も確保し、意欲が高まるよう支援しています。温泉気分を味わって頂くように 5月に大浴場を新築しました。普賢岳の壁画を見上げながらゆったりとくつろいでいただける空間を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

評価項目「運営に関する職員意見の反映」について、年に2回施設長とスタッフが面談する機会があり、年間の目標管理や日常の業務の中での困りごと、人間関係等を丁寧に確認して、入居者様へより良い支援ができるようにスタッフの意見を聴いたり、集約する場を設けている。また、評価項目「食事を楽しむことのできる支援」について、入居者様個々の適切な食事形態について、現在の試みとしてスタッフ全員にアンケートをとり、結果の集計と分析の上、ミーティングで改めて検討を行っている。その最終的な目的として入居者様の食事形態を示した食札を作ることを掲げており、1か月以内には完成見込みとのことで、スタッフ全員で入居者様の食事に対して真摯に取り組む姿勢がみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかに 生き生きと 自分らしく」を理念とし、毎月会議の始まりにスタッフ一人一人が声に出し確認している	法人で掲げている理念を職員間で共有する手段として、月例会議等の場で入居者様の「いいところ探し」を行っている。入居者様の強みや得意なことを1つでも多く見つけることで、表情が穏やかになったり、生き生きした表情になったり、その人らしい生活を送ることに繋がっていくとの考えからであった。また、理念の実践については、入居前に入居者様の生活歴等を可能な限り広く聞き取ること、あすなろで1日も早く穏やかな生活を営めることに繋がったり、何よりも日常的に入居者様と「寄り添う」ことや「話しかける」ことを大切にしている。現在の課題としては、寄り添う時間やゆっくりと関わる時間が減少傾向にあるということで、今後、業務改善等図りながら課題解決していく方針であった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2・3カ月に一度、地域の美容室の方に訪問カットに来ていただいている。	新型コロナウイルス感染症が流行る前までは、あすなろで開催するミニコンサートにご家族様やご近所の方を招待して交流の場を提供していた。今後の方針としては、感染症の収束が条件にはなるが、地域の敬老会に参加したり、音楽を通じて地域住民と様々な交流を図る方針とのことであった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年 中学生の福祉体験の受け入れを行っていたが今年は、新型コロナの影響で受け入れることができなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所の職員や民生委員の方、派出所の警察の方などに出席していただき意見、情報を共有している。	運営推進会議の実施状況については、過去3回分の議事録で確認を行った。直近の活動報告の他にも事故報告やヒヤリハット報告も掲示されており、このような情報提供を基にして、参加者から客観的な意見や質問を受けている。また、会議に警察の方が参加した際は、地域の近隣の注意事項等を教えてくれたりするため重宝しているとのことであった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新や福祉に関する手続きなどで市役所に出向いた際、ホームの状況などを話し協力関係を築いている。	運営推進会議で市担当者と定期的に接点を持っているが、それ以外にもあすなろの定員に空きが出た際に報告に行ったり、現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催されていないが、地域ケア会議に参加していたとのことであった。これらの関わり以外にも、地域包括支援センターの主任ケアマネに介護保険の制度上のことを相談したりすることがあるとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料などをスタッフで閲覧し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止や虐待防止に係る職員への周知に関しては、年間の研修の中で必ず実施するようにして、実際の年間研修計画の中にも盛り込まれていた。特に基礎的な知識に加えて怒りのコントロールを学んだり、認知症の基礎的な知識や行動障害について理解を深めている。今後の課題としては身体拘束適正化委員会を今一度整理して、委員会の中におけるPDCAサイクルを回していくような取り組みが必要である。	現行の身体拘束適正化委員会は、運営推進会議の場を利用して開催しているとのことであったが、身体拘束や虐待防止を、より一層組織的に取組むことを目的として、適正化委員会と運営推進会議を一旦分離して、定期的に委員会で話し合った内容を、会議の場で報告する流れの構築が望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で資料などを読み返し、周知して虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、理解を深めるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間を設け対応、リスクなど詳しく説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時に不安なことや不満、苦情がないか常に伺うようにしている	新型コロナウイルス感染拡大の影響で面会の制約もあるが、可能な限り入居者様とご家族様の接点を見出すように努めている。ご家族様が面会に来た際にはホールで対応して、要望や意見を聴くように努めている。また、年に1回アンケートを取るようになっている、意見箱等含めてご意見や要望等を表出する手段を、可能な限り多く作るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案書、稟議書、会議など機会をつくり意見や提案を聞いている	スタッフ2名とのヒアリングの中で、あすなろ内の風通しはよく、思ったことや意見は言いやすい環境にあるとの聴取ができた。普段の業務中だけではなく、連絡ノートや月次会議でも同様に意見は活発に出てくるとのことであった。加えて年に2回(4月・10月)、モチベーションや目標管理の進捗状況を確認する面談を行っているとのことで、上長と個別で話しをする機会も備わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、向上心を持って働けるように前向きな声掛けをおこなっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、講習や研修に多く参加できるようにしてくれる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為 交流ができていない。リモートでの研修も今後増やして行きたい		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の時に利用者様の不安に思っていることや困っていることを伺い支援していくように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いに耳を傾け信頼関係を築いていくように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、ニーズを見極めサービスに繋いでいくように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に対して尊敬の念を忘れずに普段の会話は、丁寧語、敬語で対応。また利用者様の協力があつた時は感謝を伝え 支えあう関係性を築いている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度 お便りを送付し、ホームでの出来事、受診結果、気づきなどお知らせしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為 面会や外出規制により関係継続が難しい状態である	新型コロナウイルス感染拡大の影響で以前のように人的交流や外出ができていないのが実情とのことであった。このような環境下における外出の工夫として、県下の感染状況を確認しながら、入居様の希望する美容室へご家族様の協力の下、外出するなどの工夫を行っている。感染状況が著しく悪化しない限り、あすなろのホールで面会する機会を確保する等、可能な限り関係継続の支援を実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションでは集団で取り組めるゲームを行い、入居者様同士が協力して楽しんでいただけるように工夫している。会話が聞き取れない時は、スタッフが間に入ってコミュニケーションを円滑にしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で契約が終了となった時 お見舞いに行ったり 他施設へ転所された場合は面会に行っていた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中で希望や思いを感じるように努めている	日々の支援の中で、おやつの内容や散歩の行先等、その都度入居者様へ希望を聞くようにしている。本人からの意向の把握が困難な場合はご家族様から入所以前の様子を聞き、趣味等継続できることは支援しており、事例として散歩が趣味だった方には駐車場までの散歩を行うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に生い立ちやこれまでの生活の状況などを詳しく伺っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握し 気になることがあればスタッフ全員で共有し様子観察をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングを全員で行い意見交換を行っている	入所前にアセスメントを作成し、その上で必ずご家族との面談と自宅訪問を行っている。書面やヒアリングだけでなくスタッフが実際に入居者様のバックグラウンドを知ることによって日々の支援や介護計画作成に活かしている。介護計画の見直しはスタッフ全員で検討の上、3か月に1回実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、排泄、ご本人の言葉など個人記録に記載してスタッフ間で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に合わせて臨機応変に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為外部との接触を制限していた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけの病院に通院し適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所前からのかかりつけ医を継続しており、スタッフが通院支援をしている。今年の9月から協力医療機関と往診の契約を結び月3回の健康観察を行っている。夜間や休日の緊急時対応については、手順をリビングに掲示し社内研修で演習を行い確認しており、急変時の対応に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け 相談、対応などアドバイスもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時はお見舞いに行っていたがこの1年は、コロナウィルスの為 面会ができないので電話にて病状の経過を尋ね情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階を追ってご家族と話し合いホームのできる限りの支援を行うようにしているが終末期の段階での支援は難しい状態である	あすなろの方針として入居者様の看取りは行っておらず、重度化した際は入院か退所をすることとしている。契約時にご家族様に終末期の対応方針の説明と「意思確認同意書」をとっており、入居者様の状態に変化があった際も改めてご家族様と面談を行い今後について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、AEDの勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練を年に2回行っている	消防計画と防災計画を整備しており必要に応じて随時更新している。火災の避難訓練は昨年は夜間想定で5月と11月の年2回、基本的に全入居者様参加のもと実施したとのこと。備蓄は3日分の食料、日用品、衛生用品等を備え備品リストで数量や期限の管理を行っている。	火災想定避難訓練は実施されていたが、自然災害の避難訓練は実施していないとのことであった。立地条件的に地震対策が一番必要とのことなので、あすなろの地震対策の確認と避難訓練の実施を期待する。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちに寄り添い配慮ある言葉かけを行うように心がけている	日々の支援では入居者様を人生の先輩として尊敬する姿勢と言葉遣いを心がけており、施設長がスタッフへ日々話をする事で浸透を図っている。個人情報の取り扱いについては契約時にご家族様に同意書をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉に耳を傾け できる限り希望に添えるように対応したり自己決定できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りご本人の希望を優先している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の入居者様の対して髭剃りの介助を行っている 女性の入居者様には、その人らしい季節にあった服選びの助言を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に会話しながら楽しく食事ができるようにしている	食事はあすなる内で調理しており、調理スタッフ2名が交代で提供している。現在、入居者様個別の食事形態を記載した食札の作成を目標として、スタッフに適切な食事形態についてアンケートをとり、ミーティングで再検討する取り組みを行っており、訪問調査日から1か月以内には食札が完成見込とのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、を毎日記録し、1日の栄養や水分が確保できるように食事形態の工夫を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、必ず口腔ケアを行っていただいているご自分でできられない方は、手伝っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄をしていただくように支援している	排泄チェック表を毎日記録し排泄パターンを把握している。排泄の自立度については随時検討しており、入院中に排泄の自立度が低下した入居者様について退院後、排泄支援の随時見直しを行い入院前に近い自立度へ回復した事例がある。また排泄支援時は耳元での声掛けや直接的な言葉をさけて支援することで自尊心への配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂っていただいたり乳製品を提供して自然な排便があるように工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴で負担がある方は、無理強いせず抵抗がある方は、安心感を持っていただくよう工夫しながら入浴支援を行っている	入浴は日程の間隔を空けて週2～3回実施している。今年5月に新設した大浴場は車椅子のまま浴槽に入れるスロープが特徴的であり、入居者の半分以上が車椅子で入浴しているとのこと。希望があればシャンプー等の持ち込みも可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて 午睡をされたり 日中に活動や軽作業を行っていただいたりして安眠されるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師、薬剤師と連携して服薬支援を行っている 薬の変更があれば申し送りを行い スタッフ間で共有を行う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなど できる範囲でお手伝いをお願いしている 植木の世話などご本人が希望する時にはスタッフと一緒に取り組み、花を愛でる時間を共有している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かく晴れた日には、日光浴や駐車場までの散歩を行います ご家族と外出できない期間が長く続いているが花見、イチゴ狩りなど外出の機会を設け参加をしていただいている	新型コロナウイルス流行の影響により制限があるが、ドライブで近場へ花見に行ったり、日光浴や駐車場までの散歩などを日常的に行う等の工夫をしている。また、ご家族様より極力散歩させてほしいとの要望がある方への散歩の支援や、帰宅願望がある方の自宅までの付き添い等、個別対応も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則 所持金は持っておられないが必要なものがあれば預かり金にて購入するようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月 スタッフが季節に合った壁画などを作成し居心地よく過ごせるよう工夫している	共用空間はスタッフが毎朝行っており清潔が保たれ、居間は天窓があり明るい空間となっている。居間や多目的ホールには折り紙や貼り絵などの毎月スタッフ手作りの季節感がある飾りを飾っており季節を感じられる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の思いに合わせて テーブル席を配置を考え、穏やかに過ごしていただけるようしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、使い慣れたものなどを持参していただき安らいで過ごせるようにしている	居室の掃除は毎朝行われ清潔感が保たれている。自宅から鏡台や自作の絵画、たんす、仏壇等、馴染みのあるものを持ち込んでおり、入居様の個性が出る居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるようにリビングの壁やトイレ内に手摺の設置、浴室にステッカーを貼り目印をしたり自立支援に努めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402150		
法人名	株式会社あすなろの森		
事業所名	グループホームあすなろ		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町馬場名277番地		
自己評価作成日	令和3年8月5日	外部評価結果確定日	令和3年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4271402150-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和3年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様ができるだけ落ち着いて暮らせるように またその人らしい暮らしができるように生活全般にわたって気配り、心配りを行いながら支援することを心がけています。昼食前に嚥下体操を行い、経口にて食事が摂れる機能が維持できるように 食べるという喜びを感じて頂けるよう美味しく栄養価のある食事を提供しています。日々の活動性が高まるようにレクレーションを行い、コミュニケーションの機会も確保し、意欲が高まるよう支援しています。温泉気分を味わって頂くように 5月に大浴場を新築しました。普賢岳の壁画を見上げながらゆったりとくつろいでいただける空間を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1回の会議の時に スタッフ全員で唱和を行い 理念の確認を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の美容室が定期的に訪問カットに来られたり、近隣の洋品店が訪問販売に来られたりしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、中学校の福祉体験授業の受け入れを行っていたが 今年、コロナ禍の為中止となった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方、派出所の警察官 市の職員に出席していただき 情報や意見を共有している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定、更新などの際 市町村担当者へ利用者の生活の状況などを話し 協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊があっても鍵をかけず付き添うなど 拘束を行わないケアに努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	回覧資料を配布、周知し防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前 成年後見制度を利用された方の入所があり研修を行った		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間を十分にとり丁寧に説明を行うようにしている 利用料の説明、起こりうるリスクなど詳しく説明を行い同意をいただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに意見箱を設置して苦情などの受付を行っている 市の相談窓口など外部にも意見、苦情を表せる場があることをご家族に説明している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ提案書、稟議書などを活用して職員の要望や意見を聞くようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行ったり休憩時間の確保をしたり 向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍において 内部研修のみの参加だったが今後は、内外において研修に参加を促しトレーニングしていくことを進めていくようにする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為交流する機会がなかったが今後は、勉強会などの活動を通してサービスの質を向上させるように取り組んでいきたい		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で生活状況を把握し思いや不安を受け止め困っていることは何かを知るように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を聞き 施設としてどのような対応ができるのか話し合い関係性を築くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に本人やご家族の思いを聞きホームとして支援できることは何かを考え対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する介護されるという関係ではなく 共に支え合うという関係性を築くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回のお便りを送り、日頃の状態や暮らしの出来事や気づきをご家族と共有し一緒に支援していくという関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの行きつけの美容室にご家族の協力により出かけられたり交流が途切れないよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごす時間や会話など利用者同士の関係がうまくいくようにスタッフが間に入り支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の前は、他施設へ転所となっても面会に行っていたが 今年 は行動できていない 電話にて状況把握を行うようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話で希望や思いの把握に努めている 意思疎通が困難な方は、ご家族からも情報をいただくようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドを記入していただき 利用者の理解に繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の意志を尊重していただけることを強要することなく安全に生活していただけるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員でアセスメント、意見交換、モニタリングを行い介護計画に反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にその日の様子やケアの実践や状態の変化 気づきなど記録しスタッフ間で共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望があれば臨機応変に対応するようにしている(買い物、病院受診など)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して生活できるよう警察、民生委員と意見交換する機会がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医での通院を行っている ご家族と協力して通院介助を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回訪問していただき 健康管理、相談、対応方法の助言をいただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に対して 医師、本人、ご家族と連携を取りながら スムーズに進むよう連携を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態に応じて どのように対応すべきかどれだけの事ができるのか ホームの方向性をご家族と密に話し合いご理解を頂いている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置など 訪看の看護師に聞いて実践力を身につけるようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署の協力をいただき消防訓練、消火器の使い方などの訓練を行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話を傾聴したり表情などで気になっている事を察知し、さりげない言葉かけを行うよう心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し、意思表示ができるように本人の思いを引き出すことができるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臥床して身体を休めたり個別の運動を行ったり 一人一人の体調やペースに合わせて過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の馴染みの美容室でカットや毛染めをしていただけるように支援している(ご家族の協力あり)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リビング中央に置いているホワイトボードにその日の昼食と夕食の献立を記入して楽しみを持っていただくようにしている 可能な方には食事後にトレイ拭きを手伝って頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、飲水量を把握して 少ない量の人には声掛けを行っている 栄養補助食品なども提供するようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨ける方はご自分で口腔ケアを行って頂いている できない方は介助を行っている 嚥下体操にて誤嚥予防に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	言葉かけに注意しながらトイレにて排泄していただくように時間の間隔をみながら誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	居室で過ごされる時にはいつでも水分が摂れるようにペットボトルにお茶を入れて提供している 乳製品を提供したりして便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バラバラの時間帯になるとどうしても見守りができない為 曜日、時間帯は、施設側で決めた時に入浴していただいている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、レクリエーションなどを行い活動を促し 夜に気持ちよく入眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を箱にセットする人、セットした薬の再確認(名前・日付・時間)をする人、利用者様の名前を声をだして言うなど 二重、三重の確認を行うように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなど できる軽作業を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は、日光浴を行い、屋外でおやつを食べるなどの支援を行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人の希望が強い場合は少額のお金を所持されておられる方もいるが盗られ妄想のトラブルがあるのでできる限り居室に所持金がないようにお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は、居室にてゆっくりお話しできるように 電話をかけて と言われれば取次ぎお話ができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり 貼り絵を作って掲示したり その時の季節を感じていただけるような工夫を行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を設置して 入居者様同士が雑談したり景色を眺めたり居心地の良い場所づくりを心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で愛用されていた筆筒や家具などを持ってきていただきその人らしい居室づくりの工夫を行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体の状態の変化に合わせて 居室を移動したり、ポータブルトイレを使用したり、手摺の設置を行ったり できることを活かして安全な生活が送れるように工夫している		